

### 3. 洪水ハザードマップ

#### (1) 杉並区洪水ハザードマップの現状

##### ① 東京都による都市型水害対策の経緯

都市部では、近年、ヒートアイランド現象によるとも考えられる局地的な集中豪雨が頻繁に発生して都市型水害が深刻になっており、平成11年7月の集中豪雨では地下室浸水による死亡事故も発生した。このため、東京都では地下空間浸水対策にも重点を置いて、「浸水予想区域図」(図3-11参照)の公表と地下空間管理者等への「降雨情報サービス」などを開始した。

平成12年9月の東海豪雨では、名古屋都市圏に甚大な浸水被害が発生したため、建設省(現国土交通省)に「都市型水害緊急検討委員会」が設置され平成12年11月に緊急提言が提出された。東京都では、これを受けて平成13年1月に「東京都都市型水害対策検討会」を設置し、都市型水害に対する施策についてハード、ソフト両面から総合的に検討し、同年11月に最終報告を取りまとめた。

東京都の都市型水害対策検討会では、第1に緊急に対応が可能な対策を優先的に実施し、第2に河川・下水道等のハード対策を進める一方で住民に対しては被害軽減のためのソフト対策として、水害時の情報提供、水害危機管理、広報・啓発対策等を実施し、第3に東京都と区市町村は都市型水害対策を水防計画及び地域防災計画に位置付ける、の3項目を基本的な考え方としている。

##### ② 東京都浸水予想区域図と杉並区洪水ハザードマップ

都市型水害対策の第2項目であるソフト対策として、東京都では中小河川についての浸水予想区域図を順次作成・公表し、これをベースに区市等は、避難所・避難方法等の必要な項目を追加した洪水ハザードマップを作成・公表している。

###### 1) 東京都による浸水予想区域図

東京都都市型水害対策検討会は、杉並区関連では神田川流域浸水予想区域図を平成13年8月に作成し、平成15年7月に一部修正している(図3-11参照)。

作成時点での神田川流域の河道整備状況に加えて、洪水調節池施設と下水道整備状況等を勘案した上で、平成12年の東海豪雨の降雨実績を想定し

て、50mメッシュ単位での地盤高を用いた、外水氾濫と内水氾濫のシミュレーション結果に基づいて、浸水予想区域と予想される（最大）水深のランク区分を着色表示している。

#### ○浸水シミュレーションの計算条件

- ・河道整備状況と下水道及び洪水調節池の整備状況は平成14年度末で評価
- ・地盤の高さは平成11年度末現在の50mメッシュの平均地盤高を利用
- ・平成12年東海豪雨を想定（30時間余での総雨量589mm、時間雨量最大114mm）
- ・河川と下水道で処理できない雨量分を浸水量として、各地点で最大となる時点の浸水深をランク別に着色表示

浸水予想区域図を見る場合のポイントは以下のとおりである。まず、河川沿いは低地で一般的に浸水深が大きくなるので注意が必要であるが、河川から離れている地域の中でも、帯状に着色されている区域は、現在緑道などになっていても以前河川だった場所、局所的に着色されている区域は、以前沼や池であった場所あるいは窪地状の地区で、周辺に比べて相対的な低地となっていて浸水深が大きくなるので、河川沿いの低地と同様に注意が必要である。

その他の注意点としては、洪水の予想される区域と水深は、ある時点での浸水状況ではなくて、各地域の浸水について予想される最悪の状況を示したものであること、雨の降り方、土地の利用形態の変化、河川及び下水道の整備状況により変化すること、などである。

#### 2)杉並区洪水ハザードマップ

杉並区では、区民に洪水の可能性を伝えて「緊急時の水防活動と避難行動・生活上の工夫」などに役立てるために、東京都作成の神田川流域浸水予想区域図をもとに、A3の表面には浸水の予想される区域と想定される水深をランク別に着色表示した浸水予想図を、裏面には表3-2の情報を記載した杉並区洪水ハザードマップを作成・公表している（図3-12、図3-13参照）。

1. 杉並区ハザードマップ作成について	
	・作成目的および基本事項
2. 杉並区内の水害について	
	・杉並区の水害の特徴とこれまでの主な被害状況
3. 家庭における主な注意事項	
	・気象情報（注意報・警報）、水防の準備、警報装置によるサイレンに注意 洪水時の避難の仕方、地下室の危険性・早めの避難
4. その他	
	・防災関係機関、避難所（小規模水害時・大規模水害時）

表 3-2 杉並区洪水ハザードマップに記載されているその他の項目

# 神田川流域浸水予想区域図

※ この図は、原図（1/25,000）を縮小・複製したものです。

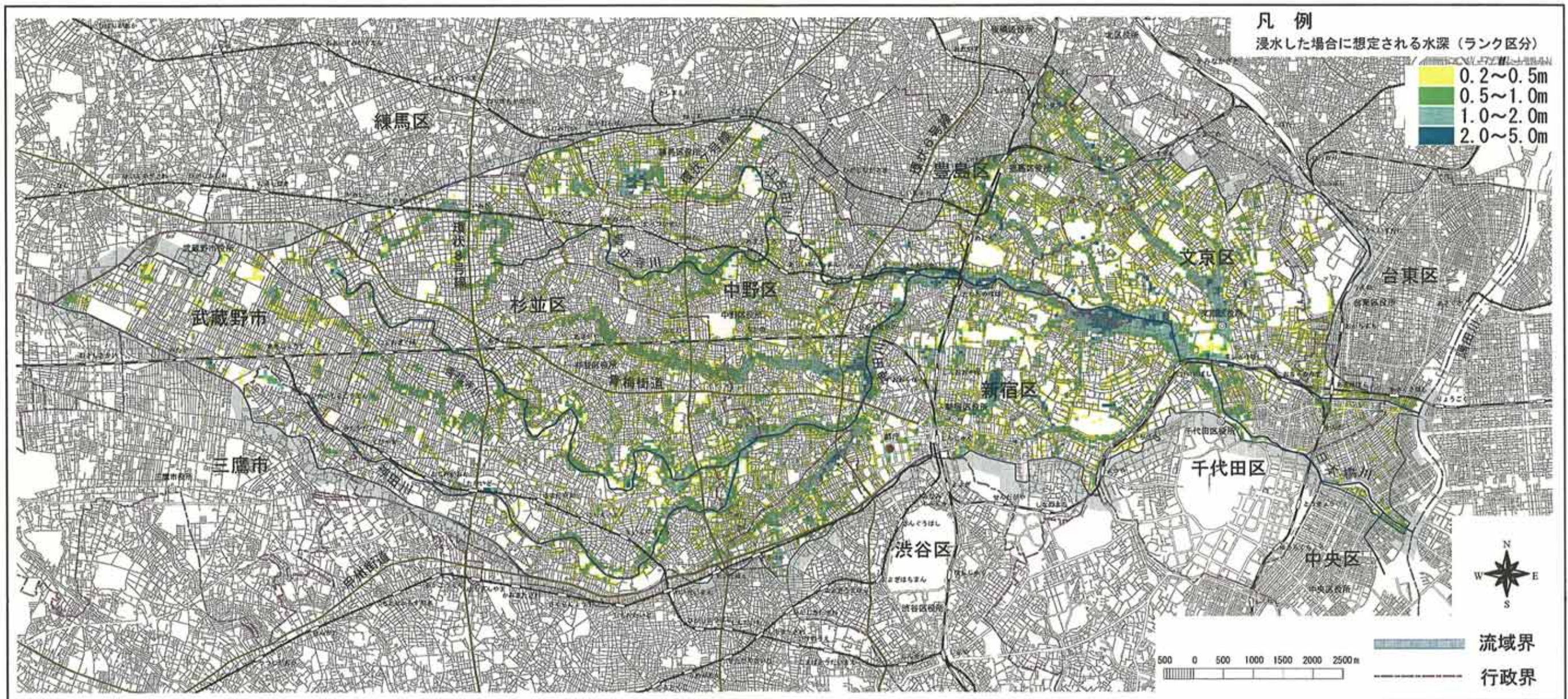
1. 神田川流域浸水予想区域図について
- (1) この図は、神田川流域の浸水予想区域と、想定される水深（最大水深）を示したものです。
  - (2) 流域の皆様には、洪水の可能性について知っていただくことにより、「緊急時の水防、避難」、「水害に強い生活様式の工夫」等に役立てていただくようお願いいたします。
  - (3) この浸水予想区域図は、現時点での神田川流域の河道整備状況、洪水調節施設及び下水道の整備状況等を勘案して、平成12年9月に発生した東海豪雨の大雨が降ったことにより、神田川流域が浸水した場合に予測される洪水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
  - (4) 洪水の予想される区域及びその程度は、雨の降り方や土地の形態の変化及び河川、下水道の整備状況等により変化することがあります。

2. 基本事項等
- (1) 作成主体 東京都都市型水害対策検討会
  - (2) 作成年月日 平成15年7月18日（一部修正）
  - (3) 対象となる河川 荒川水系神田川（神田川、善福寺川、妙正寺川、江古田川、日本橋川）
  - (4) 対象とした降雨 平成12年9月 東海豪雨  
（総雨量 589mm、時間最大雨量 114mm）
3. 図面の見方のポイント
- 一般的に河川沿いは低地であるため、浸水深が大きくなり注意が必要です。また、河川から離れていても、以下のような青・緑色の所も浸水深が大きくなるので注意してください。
- (1) 帯状に色が付いている区域は、昔、河川が流れていた場所（現在は、緑道等）で低地形です。
  - (2) 局所的に色が付いている所は、昔、沼や池などがあった場所で低地形となっています。



【問い合わせ先一覧】

東京都建設局河川部計画課	03(5321)1111(代)
東京都下水道局計画調整部計画課	〃
千代田区環境土木部環境土木総務課	03(3264)2111(代)
中央区土木部管理課	03(3543)0211(代)
新宿区総務部防災課	03(3209)1111(代)
文京区土木部土木課	03(3812)7111(代)
台東区都市づくり部道路交通課	03(5246)1111(代)
渋谷区土木部管理課	03(3463)1211(代)
中野区総務部防災課	03(3389)1111(代)
杉並区危機管理室防災課	03(3312)2111(代)
豊島区民部防災課	03(3981)1111(代)
練馬区土木部維持課	03(3993)1111(代)
武蔵野市総務部防災安全課	0422(51)5131(代)
三鷹市都市整備部緑と公園課	0422(45)1151(代)



登録番号（15）3番

図3-11. 神田川流域浸水予想区域図 出典：東京都建設局 ([http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/suigai\\_taisaku/yosouzu/kanda.pdf](http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/suigai_taisaku/yosouzu/kanda.pdf))

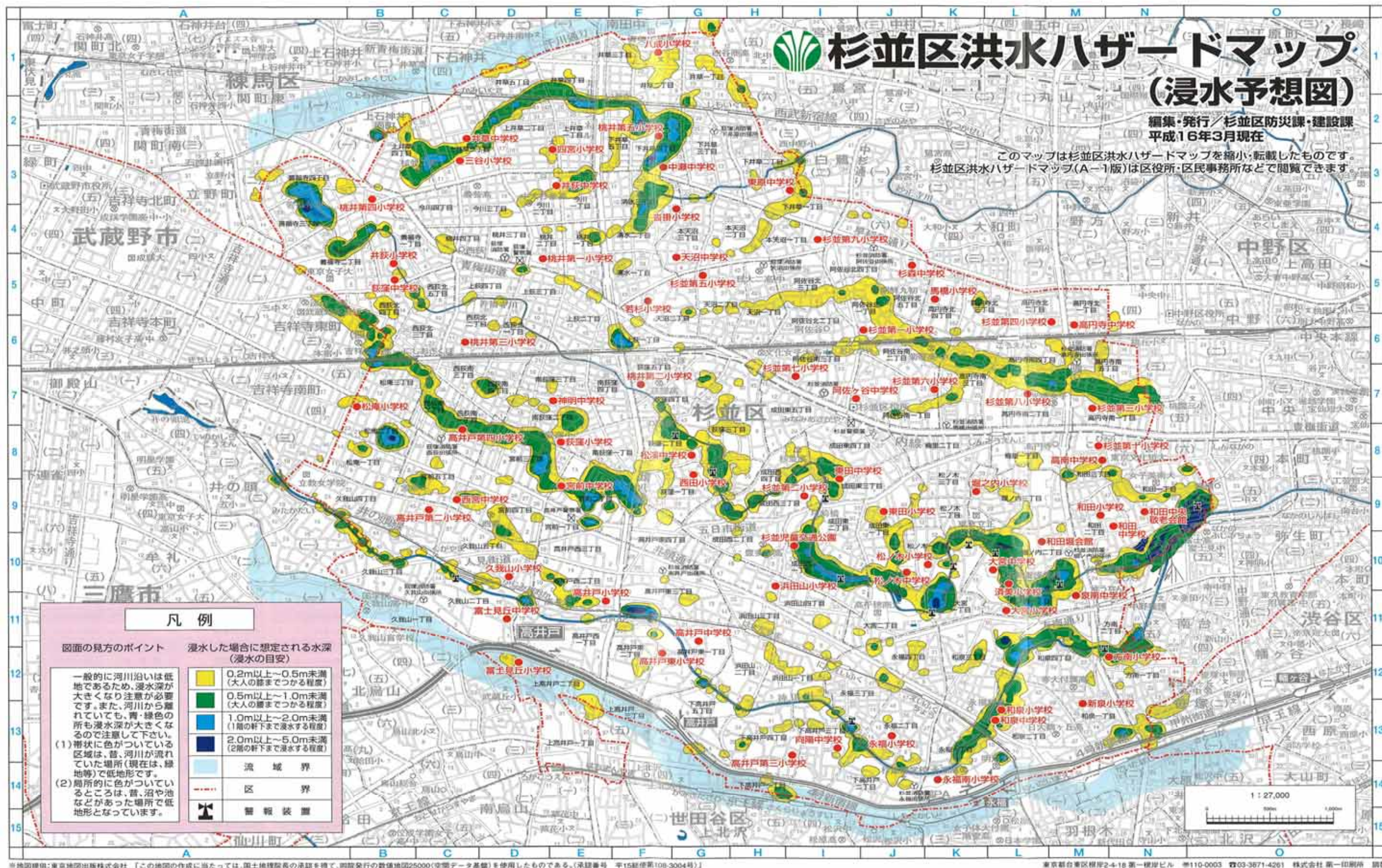


図3-12 杉並区洪水ハザードマップ(表面) 出典:「すぎなみ 暮らしのガイド わたしの便利帳 2004」、平成16年3月

